

避難所ウォッチング 2016.2/18~19 調査結果からわかったこと

きさらづ市民ネットワーク

教育部職員の説明を受けながら、総務部とともに市民ネットワークで市内 23 か所の学校を調査しました。今回は、公民館と工事中の学校を調査対象から外しました。

- スロープがあっても、てすりが無い、または片方だけでは、利用しづらい。
- 更衣室が物置になっている学校が多く、災害時に必要な物資も置けるとよいと思った。
- 耐震補強工事や建て替えた体育館は、多機能トイレがあった。
- 多機能トイレを利用するには、体育館ではなく、校舎に移動する学校の場合、体育館と校舎の扉の開放についてどうするか決めておく必要を感じた。
- 一小や西清小は、二階に体育館があり、車いすの移動は校舎のエレベーターを利用することになるが、体育館と校舎の扉の開放についてどうするか決めておく必要を感じた。
- 耐震補強工事対象外の学校、とくに、畑沢中・太田中は、天井の雨漏りもあり、カビが生えていた。
- 和式トイレの学校は、タイル敷きで、スリッパを利用、その上段差もあり、高齢者や障がい者にやさしくない環境である。
- 今後、学校や公民館など、避難所と指定されている公共施設を更新していく場合は、高齢者や障がい者が利用する視点を入れて行う必要がある。特に高齢化率の高い地域で、環境が整っていない場合は、早急に対応を検討する必要があると考える。
- 学校は、教育部管轄であるが、避難所としても利用することから、総務部危機管理室は市内の避難所の状況を把握しておく必要がある。